

四旬節第三主日

2017.3.19

ヨハネ 4・5-15,19b-26,40-42

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高

今日の福音には、サマリアのシカルという町の井戸端でのイエスさまと一人のサマリアの婦人との出会いの物語が語られています。はるばるサマリアの人々が住む町まで来られたイエスさまは旅に疲れて井戸端に腰を下ろされていたこの物語は始まっています。お昼頃の人気のなくなる時間を見計るようにして一人そこに水を汲みにきたサマリア人のその人に、「水を飲ませてください」とイエスさまは声をかけてくださったのです。こうして、福音書にその名も記されていないサマリアの婦人とイエスさまとの対話が展開されて行きます。

四旬節のこの季節、ここに集っているわたしたち一人ひとりにイエスさまはあの時と同じように、「水を飲ませてください」と語りかけておられるようには思えないでしょうか。この四旬節、わたしたちはあらためてイエスさまの十字架のお姿に心を向けようとしています。今日の福音はヨハネ福音書の4章にある物語ですが、「水を飲ませてください」とサマリアの婦人に声をかけられたイエスさまは、同じヨハネ福音書の先をたどって行くと、十字架の苦しみの中で「渴く」と叫ばれたと記されています（ヨハネ 19・28）。そこまで読み進めて行くと、「水を飲ませてください」という今日の福音のイエスさまの願いは、十字架の上で「渴く」「わたしは渴いている」と叫ばれたイエスさまの訴えでもあるかのようです。今日の福音の場面においても、あの十字架の上においても、イエスさまは確かに肉体的な渴きを覚えておられたことでしょう。しかし、サマリアの婦人に向かって、「水を飲ませてください」と願ったイエスさまは、彼女に向かって「もしあなたが神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのが誰であるかを知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう」と言われるお方です。このおことばの意味が分からず、「主よ、あなたは汲むものをお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその水を手にお入れになるのですか」と尋ねる彼女に、イエスさまは答えられます。「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠のいのちに至る水が湧き出る」。サマリアの婦人に「水を飲ませてください」と願い、十字架の上で「わたしは渴く」と叫ばれたイエスさまは、このようなみことばの主であるイエスさまなのだとしてヨハネ福音書はわたしたちに告げているのです。今日の福音にお

いて「水を飲ませてください」とサマリアの婦人に頼み、十字架の上で、「わたしは渴いている」と訴えられたイエスさまは、まさにそのようにして、永遠のいのちに至る水を約束し、そのいのちの水を与えてくださるのです。これが、今日の福音がわたしたちに示している、わたしたちが信じているイエスさまのお姿です。

イエスさまが今日の福音のサマリアの婦人にそしてわたしたち一人ひとりに求めておられるのは、イエスさまが与えると言っておられるいのちの水が何を意味しているかを知り、その水がわたしたちの内では泉となって、永遠のいのちに至る水が湧き出ることです。イエスさまはその水を求めて、十字架の上から今日も天の御父に、そして、わたしたちに「わたしは渴く」と訴えておられるのです。

今日の福音にその名も記されていないあのサマリアの婦人は、「わたしに水を飲ませてください」と求められたイエスさまとの対話を通して、ついに永遠のいのちに至るいのちの水を見出すことが出来たのです。イエスさまの語られることを理解出来ないでいたあのサマリアの婦人は最後にこう言います。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られる時、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます」。それに応えて、イエスさまは「あなたが言っている、あなたたちが待ち望んでいたメシアとは、今あなたと話しているこのわたしである」と言ってくださったのです。これが、今日の福音に語られているサマリアの婦人とイエスさまとの出会いの物語の結びです。今日の福音に語られているサマリアの婦人は、今日の福音に語られているイエスさまとの出会いによって、サマリアの人々がメシアに期待していた一切のことをイエスさまの口を通して知ることが出来たのです。そのことによって、彼女はイエスさまが言われたとおりに、自分のうちに永遠のいのちに至るいのちの水が溢れ出たことを知ることが出来たのです。彼女の中に溢れ出た永遠のいのちの水を知った喜びは、彼女のうちから溢れ出て、サマリアの人々の中に流れ出て行きます。今日の福音の結びにはサマリアの人々の喜びに満ちた感想が書き記されています。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聴いて、この方こそ本当に世の救い主であるとわかったからだ」。

十字架の上で「わたしは渴く」という叫びを残してこの世のいのちを終えられたイエスさまの死は決して悲劇に終わったのでありません。今日の福音のあのサマリアの婦人の中に、そして彼女を通してサマリアの人々の中に、さらには今日ここに集っているわたしたちの中に永遠のいのちに至る水が溢れ出る泉が開かれたことによって、あの十字架の上でイエスさまは、父なる神が託された世の救い主としてのみわざを成し遂げられたのです。「成し遂げられた」これ

がヨハネ福音書に記されているイエスさまの最後のおことばです（ヨハネ 19・30）。わたしたちの内に今日の福音が告げているように、イエスさまのおことばによって永遠のいのちに至るいのちの泉が開かれる時、イエスさまのみわざは成し遂げられるのです。そのいのちの水がわたしたちのうちに溢れ出ることを願ってイエスさまは、「わたしは渴く」と今日も訴えておられるのです。

わたしたちの心にイエスさまのことばが生きたこだまとなって響き、イエスさまの渇きがわたしたちの渇きとなって、イエスさまがあの手サマリアの婦人にうちに湧き出させてくださったいのちの水がわたしたちのうちにも溢れ出て、この世の人々を潤して行くことを願いたいと思います。